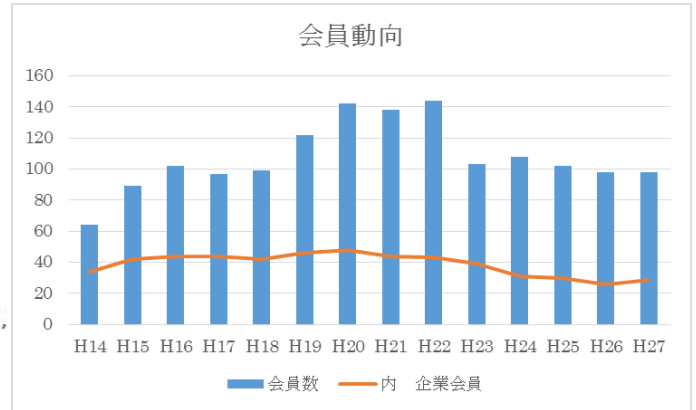
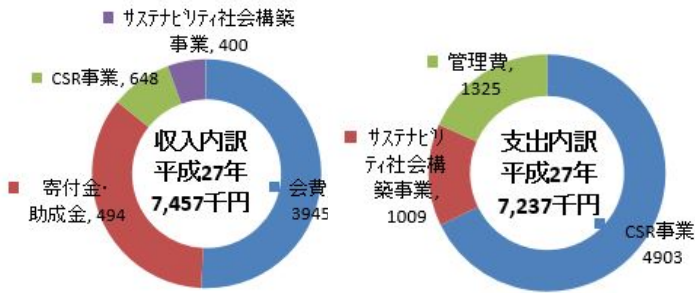


サステナビリティ日本フォーラム 平成 27 年度事業報告

(平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日)

2016.02

会員動向・財務報告



会員数は 98 (平成 27 年 12 月 31 日現在)。16 名の役員、24 名の評議員および 9 名の運営委員と専従職員は 1 名。平成 27 年度の入退会状況は、企業会員は 3 社入、2 社退 (1 社増)。個人会員は 5 名入、7 名退 (2 名減)。

事業概要

○:会員拡大を目指して一般にも開催 △:会員向けに開催 ※:新規取組み

対象者	サステナビリティに資する情報開示を促進し持続可能な社会を構築するためのプログラム		
	調査・研究	講座・座談会	レポート・発行物
CSR 部門担当者/ サステナビリティ・CSR 志向の企業人/ CSR の裾野を広げる取組みに関心を持つ人	△未来データ&シナリオ研究会 △マテリアリティ特定研究会※ △長期目標を掲げる企業事例調査※ →環境省主催低炭素杯への協力 △レジリエント企業価値評価価格付けWG	○シリーズ勉強会 ○CSR 基礎講座 ○役員向け CSR 講座 △ラウンドテーブル △EU 会計指令解説検討会※ △役員懇談会	○ラギー・フレームワーク △シリーズ勉強会レポート △ウェブサイト・会員専用ページ運営 ○メールマガジン
サステナブルな社会構築・地域創生に関心を持つ人	○海士町 再生可能エネルギー自給率向上の取組み		

事業報告

1、企業の CSR 活動を啓発・促進する事業

■…平成 27 年度新規取組み

満足度…アンケート回答で勉強会の内容について適切・概ね適切 80%以上を◎、60~80%を○、60%未満を△とする
セミナー

開催日	タイトル	講師 (敬称略)	参加者数 (非会員)	満足度	アンケート回答率
1/19	ジレンマゲームを通じて CSR の実践について理解を深める	KPMG あずさサステナビリティ 加藤祥子	22 (11)	◎	100%
1/23	成長戦略に欠かせないダイバーシティの重要性	Sus-FJ 後藤敏彦 アパシヨナータ パク・スックチャ	10 (2)	◎	70%

シリーズ勉強会 テーマ「エンゲージメントでサステナビリティの裾野を広げる」全 5 回

開催	タイトル	講師（敬称略）	参加者数 （非会員）	満足度	アンケート 回答率
5/27	「コーポレートガバナンス・コード～経営層の受託責任・説明責任が問われる時代～」	金融庁 藤本周、 日本 GE タニグチ直子	34 (12)	◎	55%
6/3	「お取引先からのエンゲージメント要望にいかに対応していくのか？」	CDP 森澤みちよ、 インテル野依靖司	21 (8)	◎	76%
7/17	ファンドマネージャーとしてのスチュワードシップ責任～ESG 投資を実行する運用会社の話を聞く～」	スパークス・アセット・マネジ メント 清水裕様、味の素 中尾洋三	29 (4)	◎	79%
9/18	原材料調達に CSR の優先課題～事業の細部に潜む生物多様性のリスク～」	レスポンスアビリティ 足立直 樹、花王 松瀬高志	16 (8)	◎	69%
11/13	「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ (SDGs) 採 択～企業が関われること～」	LIXIL 山上遊、国際協力 NGO セ ンター (JANIC) 富野岳士	19 (4)	◎	53%

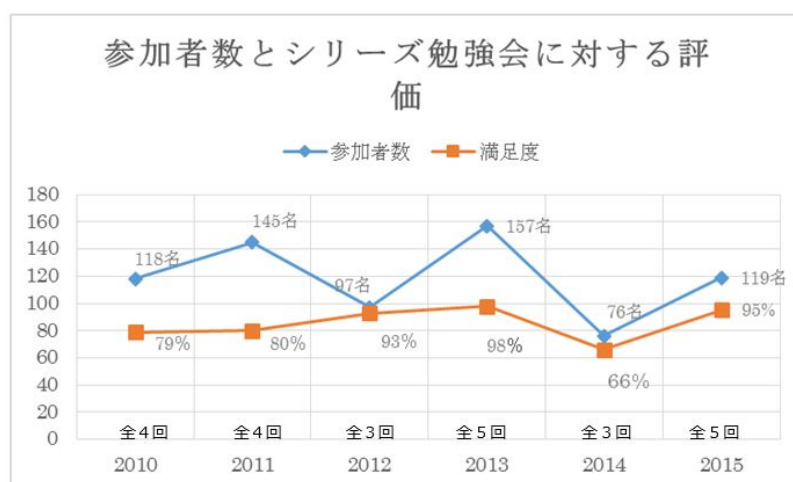


図1 参加者数と満足度（アンケート結果より、勉強会の内容について適切・概ね適切と答えた割合）の推移

CSR 基礎講座

開催	タイトル	講師	参加者数 （非会員）	満足度	アンケート 回答率
3/25,4/22,5/13, 9/29,11/10	CSR 担当者のための CSR 基礎講座 全 5 回	Sus-FJ 鎗野達男	16 (7)	◎	72%
10/20,11/11,12/17	役員・部長（室長）のための CSR 基礎講座 全 1 回	Sus-FJ 後藤敏彦	3 (1)	-	N/A

研究会 ■ …平成 27 年度新規取組み

開催	タイトル		参加数 （非会員）
1/31、2/1、 2/27	未来データ&シナリオ研究会 第 10 回、合宿	2050 年の社会及び社会的ニーズについて未来シナ リオと関連図を策定	13 (0)
10/9,10/19	マテリアリティ特定研究会 全 2 回	企業 1 社とマテリアル(重要な)課題の特定を試行	10 (1)
8月～12月	長期目標を掲げる企業事例調査	長期目標を掲載する CSR レポートの中から優良事 例を調査する	7 (2)

調査ならびに表彰制度への関わり等

(一社)地球温暖化防止全国ネットの委託により、同ネットが事務局を務める表彰制度「低炭素杯 2016」の調査及び審査に協力。平成 27 年 10 月 1 日時点の日経 225 及び過去 10 年間の環境コミュニケーション大賞受賞企業、計 256 社の中から 2030 年～2050 年の CO2 排出量削減目標を持つ企業を調査。該当企業 27 社から 10 社を低炭素杯 2016「ベスト長期目標賞」として平成 28 年 2 月 17 日で表彰する。

ラウンドテーブル（以下、RT）

開催日	タイトル	参加者数（非会員）
7/28	国際人権 NGO ヒューマンライツ・ナウ事務局長、弁護士伊藤和子さんとの RT	6（0）
8/18	CSR アジア日本代表 赤羽真理子さんとの RT	10（0）

ワーキンググループ（以下、WG）、シンポジウム ■…平成 27 年度新規取組み

開催	タイトル	委員、講師（敬称略）
1/8,1/29,3/3	レジリエント企業価値評価価格付け WG ラウンドテーブル	Sus-FJ 後藤敏彦、大和総研 河口真理子、日本政策投資銀行 竹ケ原啓介、高崎経済大学 水口剛、CDP 森澤みちよ、企業 6 社
4/20,5/15,10/14	EU 会計指令解説 WG	Sus-FJ 後藤敏彦、PwC 寺田良二、田原英俊、寺中誠、木村修平
11/18 参加者 82 名（50）	「EU 会計指令改訂と非財務情報開示～中長期的な成長戦略・ESG にどう対応するか～」	日本経済大学 松尾敏行、上智大学 上妻直義、PwC 三橋優隆、富士通 藤崎壮吾、MSCI 大海雄三、大和総研 河口真理子 モデレーター：Sus-FJ 後藤敏彦

2、サステナビリティ社会構築に向けた調査・研究・支援事業

地域創生の星、海士町で再生可能エネルギー自給率向上を目指した取組み

あま未来アイランドプロジェクトとして、国内外で注目されている「海士町」をひとつのモデルとして、環境経営学会の再生可能エネルギー研究委員会と意識啓発、調査研究、実証実験を継続。2月～8月にかけて全国 4 箇所の視察。環境経営学会研究報告大会（5/23）での報告。2月～12月にかけてスカイプ会議を全 9 回開催。

3、サステナビリティ・レポートの国際標準をめざす GRI ガイドラインの普及・啓発事業

G4 マルチステークホルダー委員会と協働し、継続して GRI ガイドライン第 4 版を普及。また、GRI が進める新たな取組み（ガイドラインからスタンダードへ移行する計画）について情報収集を行った。

4、サステナビリティ・レポートに関する研究を推進し、国内外へ提言・提案を行なう事業

1 で実施したレジリエント企業価値評価価格付け WG の成果を提言書にまとめ会員向けに発表。また、ラギー・フレームワークを継続頒布し（残部 100 部）、非財務に関わる情報開示を半歩前進させるための活動を行った。

広報活動

ウェブサイト（フェイスブックページ新設）・会員専用ページの刷新、メールマガジンの配信
配信数は全 17 号配信。購読者数は 1,311 名（+29 名）。会員メールマガジンの配信数は全 6 回。

その他

役員懇談会（2 回実施）

開催日	ゲストスピーチ（敬称略）	参加者数
1/7	エシカル市場拡大のためのラウンドテーブル「（オーガニックコットン）5%じゃ、ダメですか」全 4 回の成果としてまとめた報告書の紹介 大和総研 河口真理子	15
8/6	暮らしの質向上検討会の成果報告 内閣府 華房実保	16

その時々的重要なテーマについてゲストを呼び、各界の CSR 分野でご活躍の理事・評議員が情報交換、意見交換をする場を提供。

認定 NPO 法人に向けた取組み

認定 NPO 法人の要件を充たすために、寄付金（3,000 円/1 口以上）の募集と民間助成金への積極的な申請を行い、平成 28～29 年の認定を目指す。

以上